

31. 世界自然遺産「白神山地」における動植物等標本の100年 サンプリング・保存事業計画 ～白神標本百年保存プロジェクト～の実施

(学内対応分)

実施時期又は期間

平成23年度～継続中

対応部局及び人員

白神自然環境研究所

実施の背景・目的

自然環境が地球規模で変化する昨今、生物多様性保全の重要性が認識されるようになり、豊かな自然を有する我が国でも国家戦略として位置づけられ、各種活動が展開されている。世界最大規模のブナ林からなる世界自然遺産「白神山地」でも、自然環境は変化をしており、当該地域の生物多様性の把握は喫緊の課題となっている。

特に、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所によって放出された放射性物質の拡散とその影響を把握するために、その直後から動植物標本の収集に努めており、事故発生の前からの蓄積されている標本と放射能の影響に対する比較対照としての役割を果たすものである。

実施概要

白神山地を対象に、動植物等の標本の蓄積を中心として、これまでに蓄積してきた教育・研究の経験や成果を生かしつつ、10年先、100年先の将来を見据えた長期的な事業として、動植物等を幅広くサンプリングし、その保存作業を行っている。

効果又は結果

収集保存した標本をもとに、地球温暖化等の環境変化の影響を実証的に調査研究し、その成果を世界に発信することによって、世界、特に東アジアの環境保全に貢献することができる。

また、地域にも情報を還元することによって、地域住民の自然環境に対する取り組みにも資することができる。

さらに、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響評価に関しては、人類がいまだかつて経験したことのない規模の汚染に起因して発生するであろう各種影響を評価することが可能となる。

今後の課題

標本の保管スペースの確保

担当部局名

白神自然環境研究所



標本作製作業（昆虫）



標本作成作業（植物）